

中途難聴者への薬の講演 「～薬の正しい知識～」

開催日 3月24日
講師 中村 俊夫（津市民薬局）
場所 津センターパレス

13時30分～15時 15人の参加に対し、手話通訳 2人と口述速記、5人のボランティアで、日本薬剤師会編集の冊子「薬の正しい使い方」のパンフレットに従い、講演を1時間、その後、質問に答える形ですすめました。

1) 年齢と薬

- ・年齢とともに病気の種類や薬の種類も増える。
- ・身体の機能が低下することにより、薬の作用や副作用が強く現れやすくなる
- ・体調の変化には気をつけ、異状を感じたら、直ぐに医師または薬剤師に尋ねる

2) 薬の知識

- ・のみ薬は口から胃を通り、小腸から吸収され、血液を巡って全身に運ばれ、患部で効果を発揮します。
- ・注射は直接血管へ、坐薬は直腸から血管へ、貼付薬や塗り薬は皮膚から血管へと入ります。
- ・薬は、血管を通り肝臓で分解され、便、汗や腎臓から尿で排泄されます。
- ・薬が効くためには、血液中に一定の量が必要です。少な過ぎると効きません。多過ぎると効きすぎて副作用が現れます。

……など 基本的なことを話しました。

主な質問など

- ①お薬手帳 薬情報紙は持っても殆ど活用していなかった。
- ②ボナロンを朝食後、他の薬と一緒に飲んでた。
- ③ラックビーの副作用を恐れていた。
- ④血圧の薬は一生のみ続けなければならないか？
- ⑤アレルギー、薬疹が出ない薬は無いかな？

<感想> 7人のボランティアは一生懸命に支えていました。
薬剤師は、筆談や身振りなどで、丁寧に説明してあげないといけませんね。
患者さんは、全ての薬の相談が出来る「かかりつけの薬剤師」をもって頂くことですね。

以上